備 前 市 施 策 評 価 シ ー ト

（平成18年度事業）

施策名（小項目）	土地区画整理	コード	作成者	役職	都市整備課長
		01-01-06		氏名	樽家真佐人
				電話	64-1833

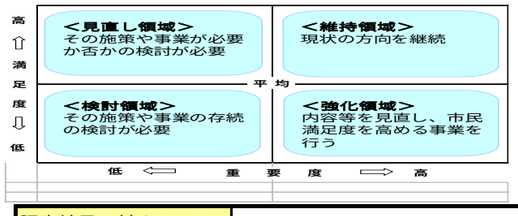
備前市総合計画の内容から記載する

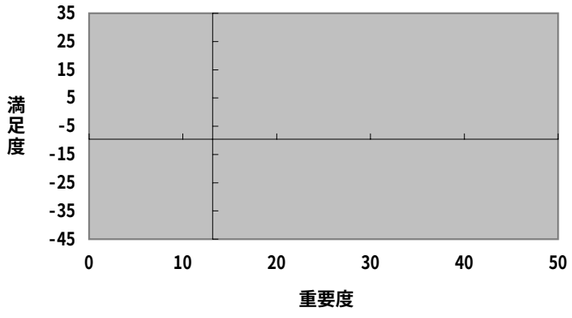
施策の体系		
	大項目（基本目標）	安全で快適に暮らせるまちづくり
	中項目（基本施策）	生活しやすいまちづくり

① 施策の対象と目的 (誰のために、何のために)	広く市民のため、道路、公園、上下水道などの都市基盤の整備や、密集地の環境改善など、一定地域を総合的に整備し、合理的な土地利用図り、新たな都市拠点作りを進める。
② 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	本市の土地区画整理事業は、事業完了では3地区あり、計画地は伊部・浦伊部地区の61.1haがあるが、関係者の理解と強力が得られないまま事業が休止されている。活力ある都市社会の実現を図り、地域経済の発展の核となる新しい機能を持った都市拠点作りを進めることが必要だが、社会経済情勢の変化にあわせ、再度計画を検証する必要がある。
③ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	・ 伊部・浦伊部地区は、計画決定から30年が経過し、土地状況や関係地権者をはじめ社会経済情勢も大きく変化していることから見直しをするとともに、事業再開に向け再度関係者に協力を求め、良好な居住環境と利便性に富んだ新市街地形成を図り、市の活性化と人口の定住化を促進する。 ・ 有料住宅地の整備を促進するため、適地を選定し、適正な土地利用の誘導や有料住宅地の整備に努める。 ・ ・ ・

④市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H19	H20	H21
重要度（%）			
満足度（%）			





調査結果に対するコメント、市民の反応等 （調査対象でない施策の場合は、市民の反応等）	計画決定後、長期間経過しまた休止後も長年経過しているため、市民からの反応はあまり無い。

⑤ 施策成果指標（基本目標・基本施策・施策意図から設定）

	施策に対する成果指標名		単位	評価年度 H17	評価年度 H18	評価年度	目標値 H23	目標値 H28	ベンチマーク	指標の説明
1	各権利者の理解度	目標	%	100.0	100.0		100.0	100.0		事業賛同者/権利者総数
		実績	%							
		達成率	%	0.0	0.0					
2		目標								
		実績								
		達成率	%							
3		目標								
		実績								
		達成率	%							
4		目標								
		実績								
		達成率	%							

⑥ 施策構成事務事業の評価

担 当 課 長 評 価

	施策を構成する事務事業名	事務事業評価結果 A ～ E (高 ～ 低)	細事業一覧表	事業分類	事業費（単位：千円） H17 直接事業費	H17 人件費	H18 直接事業費	H18 人件費	H19 直接事業費	H19 人件費	優先順位 ☆☆☆ ☆☆ ☆ その他
1	土地区画整理事業	D	土地区画整理事務	内部管理	0	0	0	0			☆
			(社)街づくり区画整理協会会費	内部管理	20		25				☆

この施策に要した費用（人件費込、単位：千円）	H17	H18	H19
	20	25	

⑦ ⑥以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	そ の 説 明
都市整備課	アンケートの実施	区画整理事業に対する権利者の理解度等を調査し、事業実現可能か検討を行う。

⑧ 施策の評価

5：非常に高い　4：高い　3：どちらともいえない　2：低い　1：非常に低い

項 目	一次評価 評価	一次評価 判断理由	二次評価 評価	二次評価 判断理由
1 目的達成度	1	目的達成のための調査ができていない	1	事業が進捗していない。
2 事業構成の適当性	2	協会会費納入のみであるが、事業休止状況を考慮し事業休止でも良いのでは。	1	事業の休止を考えるべきではないか。
3 施策の有効性	1	事業着手できる状況後施策としても良いが、事業に対する情報収集等に必要	1	見直しを考えるべきである。
今後の展開・協働の可能性・事業の見直し等の担当への指示	区画整理事業により土地が有効活用でき、市の活性化にもつながることから、アンケートを早期に行い権利者の意向調査を行う必要がある。		再度計画を検証する必要がある。	
二次評価者コメント 役職 産業建設部長 氏名 三好 保	予算としては、街づくり区画整理協会会費の25千円だけである。見直しをすることによって、いらなくなるかどうかを検討する必要がある。		平成20年度予算の方向性：減 配 分	